

会 議 要 旨

- 1 会 議 名 第7期 北九州市人権施策審議会 第4回会議
- 2 議 題
(1) 令和2年度の人権教育の取組みについて
(2) 令和2年度の人権啓発の取組みについて
(3) 報告：ヘイトスピーチの状況について
(4) その他
- 3 開催時期 令和3年2月下旬
- 4 開催方法 書面開催
- 5 出席委員氏名 中島俊介、大島まな、尾形由起子、小倉知子、河嶋静代、
古賀由美子、児玉幸子、小村洋一、城田泰子、鈴木英生、
服部祐充子、火箱 要、三浦隆史、吉田ゆかり 計14人

6 議題、議事の概要

(1) 令和2年度の人権教育の取組みについて

主な意見は次のとおり。

- ・小中学校の9年間を見通した「北九州子どもつながりプログラム」の活用など、人権教育が推進されている点は評価できる。
- ・学校教育の取り組みとして、新型コロナウイルス感染症にかかわるいじめや偏見・差別の防止に具体的に取り組んだことは良かったと思う。今後、相談実績の集計、効果検証についても報告してほしい。
- ・社会教育の取り組みとして企業研修や人権学習講座が実施できたこと、その演題も適したものであったことは良かったと思う。受け身になりがちな講演形式を、より主体的に話し合えるワークショップ形式にするなど、今後の工夫を期待する。

(2) 令和2年度の人権啓発の取組みについて

主な意見は次のとおり。

- ・啓発活動の多さ、多彩さに感心した。キャラクター「モモマルくん」の可愛さも、効果は大きいと思う。

- ・ 人権啓発情報紙「いのち あい ころ」のテーマが良かった。
- ・ 職員休暇制度の改正（パートナーシップ関係にある者を配偶者と同様の取扱いにする）は大きな一歩であり、高評価である。
- ・ デートDV予防教室は、早期予防のため中学生でも実施できると良いのではと思った。
- ・ 保存版「障害者差別解消条例」リーフレットはよく出来ていると思った。
- ・ 様々な施策が実施されており、主として定量的な成果として公表されているが、こうした施策が課題の解決にどう貢献したのかといった掘り下げた評価が必要である。
- ・ 小児期の貧困や虐待、いじめなどの逆境的体験が持続すると子どもの心は育ちにくくなる。子どもの心を代弁するアドボケートや、政策の強化が必要だと思う。

（3）報告：ヘイトスピーチの状況について

主な意見は次のとおり。

- ・ ヘイトスピーチの事案が発生したことは大変残念である。人を攻撃し傷つける言葉であり、許されないことである。
- ・ 人権行政指針で「国や県等と連携し、ヘイトスピーチ解消に向けた啓発に努めます」とされているが、今後は具体的な施策を実施していく必要があると思う。
- ・ 北九州市の対応は適切であったと思う。「多文化共生」の進展に阻害要因とならないよう、今後もしっかりとした対応を期待する。
- ・ ヘイトスピーチに関連する学びを人権教育の中できちんと位置付けるとともに、県内の対応関係部局の連携強化と定期的な情報交換が必要であると思う。

7 問合せ先 保健福祉局人権推進センター人権文化推進課

電話 093-562-5010